

裁

六年

画数 12
筆順

裁
さい
たひつ・さばりく

成り立ち



「切」の「切る」という意味を表した「𠄎」と、「切れる物」の意味を表した「戈」と、衣服の意味の「衣」とを組み合わせて作った字です。

衣服を作るために、布を断ち切る（裁断という）ことを表した字です。これを「衣服を裁つ」と言います。

【例】裁断、裁縫、洋服、和裁。

布は一度「裁つ」たら、もう変更することはできません。そのように「二度と変えることのない権威のある決定」を「さばく」と言い、「さばく」意味に使います。【例】

裁裁、裁定、裁判、裁量、仲裁。
また、布のある形に裁ち切るので、「形」の意味にも使います。【例】体裁。

使い方

▽わたしは裁縫が苦手です。遊んでいてこしらえたかぎざきをつくろったり、とれたボタンをつけたりするのは、とても面倒です。おかあさんが、何回もやるうちに上手になるからやりなさい、と言うので、がまんしてやっています。

▽ぼくと弟がけんかをしていたら、おねえさんが仲裁に入って、「どうしてそう始終けんかをするの。仲良く遊ばなさい」と、ぼくたちをしっかりとりました。

熟語例

▽裁断（布や紙などを型に合わせて裁つこと。また、善し悪しなどを裁くとも言います。）

▽裁縫（布を裁って縫うこと。針仕事のことを言います。）

▽洋服（西洋式の裁縫。洋服を作ることです。）

▽和裁（日本式の裁縫。和服を作ること。）

▽決裁（裁いて決めること。上の人が部下の案を用いるか、用いないかを判断して決めることを言います。）

▽裁定（裁いて決定すること。）

▽仲裁（争いの間に入って、仲直りさせること。）

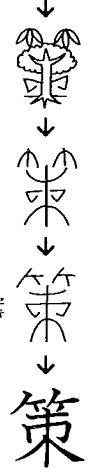
策

六年

画数 12
筆順

策
さく
たひつ

成り立ち



「責（年760）める」という意味の「束」と、竹の意味の「𠄎」とを組み合わせて作った字です。

「馬を責める（馬にむちを当てること）」ために使う籀文「𠄎」の「束」を表現した字です。

馬に使う「むち」や「つえ」を表した字です。【例】策杖、散策。

「竹簡（簡5853）」の意味にも使われ、「文書にまとめられた計りごと（謀りごと）」の意味にも使われます。

【例】策略、策謀、画策、政策、对策。

六年

使い方

▽閑静な住宅街や林の中の小道を散策するのは、気持ちの良いものです。

▽昔から、策略にたけているので有名な人は何人もいましたが、中でも有名なのはマキャベリでしょう。中世のイタリヤに生まれた人で、「君主論」を書き、その中で策謀のあれこれを書いています。策略を重んずるやり方を「マキャベリズム」と言います。

熟語例

▽策杖（むち）

▽策杖（つえ）

▽散策（散歩のこと。つえをついて散歩する、ということですが、今ではつえに関係なく、散歩することを言います。）

▽策略（はかりごと。「策略をめぐらす」などというふうにな、つかいます。）

▽策謀（はかりごと。「彼は策謀家だ」などというふうにな、策略より悪い意味につかいます。）

▽画策（色々と計画をめぐらすこと。）

▽政策（政治の上でのはかりごと。）